



翻译与文化

FANYIYUWENHUA

厦门大学外文学学院日语系 编
厦门大学日本语教育研究中心



厦门大学出版社

厦门大学日本语教育研究中心学术研究成果汇编（二）

翻 译 与 文 化

厦门大学外文学院日语系

厦门大学日本语教育研究中心

编

厦门大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

翻译与文化. 第2辑/厦门大学外文学院日语系, 厦门大学日本
语教育研究中心编. —厦门: 厦门大学出版社, 2006. 9

ISBN 7-5615-2719-5

I. 翻… II. ①厦… ②厦… III. 日语-研究-文集 IV. H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 100271 号

厦门大学出版社出版发行

(地址: 厦门大学 邮编: 361005)

<http://www.xmupress.com>

xmup @ public.xm.fj.cn

沙县方圆印刷有限公司印刷

2006 年 10 月第 1 版 2006 年 10 月第 1 次印刷

开本: 850×1168 1/32 印张: 9.25 插页: 2

字数: 223 千字 印数: 0001~1000 册

定价: 23.00 元

如有印装质量问题请与承印厂调换

编辑委员会

(按姓氏音序排列)

陈端端	顾江萍	黄少光	纪太平	雷慧英
林娟娟	刘晓冷	吴光辉	吴素兰	余逸文

主编单位:

厦门大学外文学院日语系
厦门大学日本语教育研究中心

主编:

吴光辉 刘晓冷

目 录

1/日中音声学研究

——母校厦门大学設立 85 周年を記念して

朱新建

第一编：翻译学研究

23/试论翻译的“传递、再现、再生”三大功能

纪太平

32/中日文汉字同字词的翻译对策

雷慧英

41/近代翻译兴起的原因探究及其影响

卓 凌

49/关于翻译定义的反思

刘 岫

57/从《挪威的森林》看文学翻译中的风格再现问题

傅美莲

71/“物语”小议

商钟岚

77/俳句的翻译

梁新娟

88/汉日语法范畴初级比较

——浅谈对翻译实践的影响

郭 莉

94/谈翻译中美的追求

陈惠明

102/中日文被动句的对译

黄 莺

第二编：日本文学研究

119/奈良・平安朝漢詩集の序の比較的研究

——文に語れるものを読む

黄少光

142/『可笑記』における『論語』の受容

吴素兰

- | | |
|------------------------|-----|
| 170/《大江千里集》汉诗摄取形式之成因分析 | 顾姗姗 |
| 180/中期の芥川文学 | 张 蕾 |
| 192/プロレタリア文芸思潮に対する川端の姿 | 余逸文 |
| 217/女性、家庭、男性 | |
| ——从《华冈青洲的妻子》看三者关系 | 胡永红 |
| 225/战争・人・人性 | |
| ——战后日本战争文学探究 | 李小慧 |
| 235/小说话语结构与“文化恋母情结” | |
| ——评井上靖的《猎枪》 | 房占元 |

第三编：日语教育与日本文化

- | | |
|------------------------|-----|
| 247/中日言語の感情表現相違をめぐって | |
| ——言語使用意識からを見る | 陳端端 |
| 253/日本文化言語学の必要性 | |
| ——新しい学科構築の提唱 | 林娟娟 |
| 264/比较文化学与文化解释学的视角转换 | |
| ——试论“中日文化交流史”的教学与研究 | 吴光辉 |
| 273/鲁思・本尼迪克特：耻的文化与罪的文化 | 陈义妹 |
| 277/李御宁：缩小意识的日本文化 | 刘 祺 |
| 280/文末表現から見る日本語の言文一致化 | 熊 娟 |

日中音声学研究

——母校厦門大学設立 85 周年を記念して

朱新建

はじめに

中国語厦門方言に関する先行研究では、いずれも厦門語の頭子音である b/m 、 $l(d)/n$ 、 γ/N については記述が曖昧であり、不十分であるとする。筆者は九州大学研究生時代から言語学の角度からこの研究にとりかかり、名古屋大学大学院時代に研究を継続し、厦門語話者の日本語発音を分析したり、海南島へ海南島閩方言にある入破音の現地調査をしたり、ベトナムへ入破音の現況調査をしたりした上で、厦門語の頭子音 b/m 、 $l(d)/n$ 、 g/N は有聲破裂音ではなく有聲入破音 (implosive) $\equiv m$ 、 l/n 、 γ/N であると結論付けることができた (本稿で使用する音声記号は IPA に従う。以下同)。

一方、日本語アクセントの習得については中国における日本語教育を概観しても、非常に重視しているとは言いがたい。日本語のアクセントは中国語の声調のように辞書形の声調を覚えればすむのではなく、辞書に示さない複合語や文アクセントを習得しなければならないと考えている。

1. 音声の研究

日本語学習及び日本語教育においては、言語構成の三要素である音声・語彙・文法の内、まず音声習得の指導が第一であり、それに関わる音声学の研究と教材開発は欠くことができない。とりわけ中国における日本語音声教育は、中国語の標準語である北京語を母語とする学習者よりも、中国語各方言を母語とする学習者のほうが多く、学習者にはそれぞれの母語についての自覚と反省が必要であろうし、教育者にはそれぞれの方言話者に対する適切な教授法が要求されるであろう。これにふまえて、筆者のこれまでの日中音声学研究の一部を示しながら音声教育の重要性を述べたい。

1.1 日本語歯茎子音の研究

ラ行音は日本語歯茎子音の中でも習得は難しい音声の一つで、rと表記するこの弾き音[r]は鼻音の後に来ると、アナウンサなどが放送で強調してしゃべるように破裂が強すぎると、破裂音の[d]に聞こえることはよくある。

例えば、信頼^{しんらい}→[ʃin dai](寝台^{しんたい})、本来^{ほんらい}→[hɔn dai](本題^{ほんだい})、

翻弄^{はんろう}→[hɔn do:]^(ほんどう)。

歯茎の側面音の[l]に近い音色であるが、舌の両側から呼気が流れ出る[l]に対して、呼気が舌の上から流れ出るため、呼気が強すぎると、同じ歯茎の破裂音の[d]になりやすいわけである。ところで、弱い弾き音の[r]はまた厦門語の[l]に似ているところが面白い。この日本語の弾き音rの特徴を筆

者独特の表記として[・]と表記する。日本語の音声のまとめとして次のように示しておく。

日本語の音素と代表的異音

1. 母音音素と代表的異音

/a/→ [a] ア段音, ア段拗音

/i/→ [i] イ段音

/u/→ [ɯ] ウ段音 (下記以外), → [œ] / {s, t, z}
__ス, ツ, ズ, ヅ

/e/→ [e]

/o/→ [o]

2. 子音音素と代表的異音

/p/→ [p] パ, プ, ペ, ポ, → [pj] /__ {i, j} ピ,
ピヤ行音

/b/→ [b] バ, ブ, ベ, ボ, → [bj] /__ {i, j} ビ,
ビヤ行音

/m/→ [m] マ, ム, メ, モ, → [・] /__ {i, j} ミ,
ミヤ行音

/t/→ [t] タ, テ, ト, → [tj] /__ {i, j} チ, チ
ヤ行音, → [ts] /__ œ ツ

/d/→ [d] ダ, デ, ド, → [dj] /__ {i, j} チ,
ヂヤ行音→ [dz] /__ œ ヅ

/n/→ [n] ナ, ヌ, ネ, ノ, → [・] /__ {i, j} ニ,
ニヤ行音

/r/→ [r] ラ, ル, レ, ロ, → [・] /__ {i, j} リ,
リヤ行音

/k/→ [k] カ, ク, ケ, コ, → [・] /__ {i, j} キ,
キヤ行音

/g/→ [g] ガ, グ, ゲ, ゴ, → [gj] /__ {i, j} ギ,
ギヤ行音, → [ŋ] カ, ク, ケ, コ (語中), → [ŋj] /__ {i,
j} キ, キヤ行音 (語中)

/h/→ [h] ハ, ヘ, ホ, → [ç] /__ {i, j} ヒ, ヒ
ヤ行音, → [ϕ] /__ ∞フ

/s/→ [s] サ, ス, セ, ソ, → [ʃ] /__ {i, j} シ,
シャ行音

/z/→ [dz] ザ, ズ, ゼ, ゾ, → [dʒ] /__ {i, j} ジ,
ジャ行音

3. 特殊音素と代表的異音

/N/→ [m] /__ {p, b, m}, → [n] /__ {t, d, n, r},
→ [ɱ] /__ ɱ, → [ŋ] /__ {k, g, ŋ}

/Q/→ [p:] /__ p, → [t:] /__ t, → [k:] /__ k, → [s:] /
__ s, → [ʃ:] /__ ʃ

/R/→ [ɹ] /V__

4. 半母音音素と代表的異音

/j/→ [j] /w/→ [w]

【注】[pj], [bj]及び[ɱ][ɱ][t][d][ʃ]はいずれもそれぞれの口蓋化
の表記である。

1.2 厦門語頭子音≡/μ, ʌ/v, ♥/Nの研究

羅常培 1956 をはじめ、陳栄嵐・李熙泰 1994、周長楫・欧
阳忆耘 1998 などはいずれも厦門語の頭子音 b/m, l(d)/n, γ/N
は有声破裂音であると記述されている。

【表 1】

厦門語子音体系の記述

羅常培 1956『厦門音系』				朱新建 1992『厦門語と日本語 の音声の比較』			
p	p'	b	m	p	p'	≡ (m)	(ϕ)
t	t'	l	n	t	t'	└ (n)	l (・) (P)
k	k'	γ	ŋ	k	k'	♥	(ŋ)
/			h	/			h
ts	ts'		s	ts	ts'	s	(j) (X)
tɕ	tɕ'	dʒ		tɕ	tɕ'	dʒ	
陳榮嵐・李熙泰 1994『厦門方言』				周長楫・歐陽憶耘 1998《厦門方 言研究》			
p	p'	b	(m)	p	p'	b	m
t	t'	d	(n)	t	t'	l	n
k	k'	γ	(ŋ)	k	k'	γ	ŋ
			h				h
ts	ts'	dʒ	s	ts	ts'		s

それならば、厦門語話者は困難を感じることなく日本語の有声破裂音を習得することができると考えられる。実際、筆者の母語である永州方言には有声破裂音が存在するため(1.3を参照されたい)、筆者は学生時代に北京語話者などが困難を感じる日本語の有声破裂音は難なく習得したと記憶しているが、厦門語話者の場合はやや違って、日本語の有声破裂音を習得する際に十分な破裂ができずに、困難を感じる感じがしばしば見られる。

例えば、^{びんぼう}貧乏→[≡im po:] ^{でんしゃ}電車→[ten ja]

うんが
運河 → [uN ka]

これについて筆者は、九州大学研究生時代から言語学の角度からこの研究にとりかかり、名古屋大学大学院時代に研究を継続し、厦門語の頭子音 b/m、l(d)/n、ɣ/Nは有声破裂音ではなく有声入破音≡/m、l/n、ɣ/Nであると結論付けることができたと前述したが、最近の新しい研究でも丁邦新・張双庆 2002 などに指摘があったように、歴史上、呉越時代に始まった言語交流と言語融合によって、呉方言や浙江省に分布する閩方言には現在のベトナム語にある入破音が残存していることが証明されており、陳榮嵐・李熙泰 1994 に述べられたように、福建省はかつての閩越国、東南越の地であったため、現在のベトナム語の祖語を話す原住民と東呉や河洛からやってきた漢人との長い歴史の言語交流と言語融合があったため、閩南方言の代表方言である厦門方言にも入破音が残存している歴史的な理由である(1.4 を参照されたい)。厦門方言音声のまとめとして次に示しておく。

厦門語の音素と代表的な異音

1. 母音音素と代表的異音

/a/ → [a] / {i, u} __ {i, u, n}

/i/ → [i] / {u, a, ua,} __ {a, u}

/u/ → [u] / {i, a, ia} __

/e/ → [e]

/o/ → [ɤ] /i__, → [o]

/ɔ/ → [ɔ]

2. 子音音素と代表的異音

/p/ → [p]

/p' /→ [p']

/≡/m /→ [≡] /__v, → [m] /__ṽ

/t /→ [t]

/t' /→ [t']

/ㄥ/n /→ [ㄥ] /__v, → [n] /__ṽ

/l /→ [ㄹ], → [r] /__ {u, a, e, ɔ, j}

/k /→ [k]

/k' /→ [k']

/♥/η /→ [♥] /__v, → [η] /__ṽ

/h /→ [ϕ] /__u, → [ç] /__i, → [h] /__ {a, e, o, ϕ}

/c /→ [ts] /__i 以外, → [t] /__i

/c' /→ [ts'] /__i 以外, [t'] /__i

/s /→ [s] /__i 以外, → [ʃ] /__i

3. 音節末尾音

/-m /→ [-m] / {a, i, ia} __

/-n /→ [-n] / {a, i, ia, u, ua, ɔ} __

/-η /→ [-η] / {i, ia, io, io} __

/-p /→ [-p] / {a, i, ia} __

/-t /→ [-p] / {a, i, ia, u, ua} __

/-k /→ [-k] / {a, i, ia, io, io} __

/-/ /→ [-/] / {a, i, io, u, ua, ue, ui, e, o, m, η} __

4. 半母音

/j /→ [j]

/w /→ [w]

1.3 永州方言の有声破裂音の研究

永州方言は有声破裂音や有声摩擦音が存在することが特徴である。湘方言に属する方言であるが、三国時代に張飛が水兵を訓練した地でもあることから、吳方言の影響は大きい。音声体系是北京方言と比較すると次のようになる。

【表2】 北京方言と永州方言の子音体系

北京方言				永州方言			
p	p'	m	f	p	p'	b	m
t	t'	n	l	t	t'	d	n (l)
k	k'		x	k	k'	x	⊗ η
tʃ	tʃ'	ʃ		tʃ	tʃ'	ʃ	ʃ
tʂ	tʂ'	ʂ	ʅ	tʂ	tʂ'	ʂ	ʂ
ts	ts'	s		ts	ts'	s	z

1.4 中国語に見られる入破音の研究

現代中国語に見られる入破音は中国語の北方方言にはなく、南方方言にしか見られない特殊な音声現象である。

中国語南方方言の閩方言圏、吳方言圏に入破音の存在が認められ、近年、その研究が注目されている。閩方言圏、吳方言圏は地理的には歴史上、紀元前 17 世紀の商の時代に越ができ、紀元前 11 世紀の西周の時代に吳ができ、紀元前 7 世紀の春秋戦国時代から秦の時代まで吳越、閩越、駱越、東甌、西甌のあった地であり、いわゆる古代の百越、駱甌の地であった。今の越南（ベトナム）語圏、侗台語圏は古代では駱越、西甌の地であり、その言葉に周知の入破音を特徴としている

ように、かつての呉越、閩越、東甌の地だった閩方言圏、呉方言圏に入破音が存在するのは何の不思議もない訳である。中国語に見られる入破音は何千年もの漢民族と周辺民族との文化の交流、融合の証拠の一つであると言えるであろう。

【表 3】 中国語に見られる入破音分布分類表

分 類	閩 方 言 圏		呉 方 言 圏	
	海南方言	厦門方言	浙江南部方言	上海周辺方言
体 系	6	d' g'	6	d'
鼻音化型		6/m d/n g/ŋ	6/m d/n	
非鼻音化型	6 d' g'			6 d'

参考の為にベトナム語の音声体系を示しておく。

【表 4】 ハノイ方言子音体系表

		両唇音	唇歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無気音	p		t			k	
	有気音			t'				
入 破 音		6		d'				
鼻 音		m		n		ɲ	ŋ	
摩擦音	無声音		f		s		x	h
	有声音		v		z		⊗	
破 擦 音						ts		
側 面 音				l				
末 子 音		-p, -m	-t, -n			-ɲ, -k	-k, -ŋ	

【表5】 ホーチミン方言子音体系表

		両唇音	唇齒音	齒茎音	後部齒茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無気音	p		t				k	
	有気音			t'					
入破音		b		d					
鼻音		m		n			ɲ	ŋ	
摩擦音	無声音		f		s	ʃ		x	h
	有声音					l		ʔ	
破擦音							ts		
側面音				l		ɭ			
末子音		-p, -m, -t, -n					-ɲ, -k	-k, -ŋ	

2. 音調の研究

「音調」という術語は、厦門大学大学院時代に、恩師の黄国雄先生が、日本語の「アクセント」という言葉を訳すときに使った訳語であるが、今思えば、中国語の「声調」に対して、日本語の「アクセント」は本質が異なるため、当時權威的な雑誌に挙げた「重音」という訳語を否定し、「音調」という言葉を使ったことは独創的で印象的であった。

日本における言語学研究や音声学研究で「音調」という術

語を使ったのは、著名な言語学者で、日本言語学会先代会長の早田輝洋教授、実は早田輝洋先生も北京大平学校時代と九州大学研究生時代の恩師である。早田氏は、日本語アクセントは声調型のアクセントがある（鹿児島や近畿など）と主張し、「声調という術語を音節のみが担うものと限定せず、単語や形態素も担えるものと定義すれば、日本語の声調を漢語（漢族の言語）をはじめとする中国大陆の種々の言語・方言の声調とも比較できることになる」（早田輝洋 1999）と指摘している。体系の異なる言語は比較できないと考えている研究者が多く、今までの「日中対照研究」はやがて「日中比較研究」になる時代がくるかもしれない。言語学の進歩である。

日本語でいう「音調」とは、広義のアクセントで、イントネーションやプロミネンスも研究対象である。音声学研究においては「音調」の研究は新しい研究課題であり、注目されたい。

2.1 日本語アクセントの成立—東京と名古屋の関係

東京には「山の手言葉」と「下町言葉」があるが、「下町言葉」は京阪語を基にした町人言葉であるのに対して、「山の手言葉」は武家言葉として現代日本語の共通語の母体となる方言である。この武家言葉とは、名古屋の将軍徳川家康が1590年江戸入国後、名古屋近辺三河から江戸に大挙移住した徳川家臣団の武士たちが使う言葉である。山口幸洋 2003によると、名古屋近郊の岡崎のアクセントは東京アクセントとほぼ完全に一致していることがわかっている。筆者は名古屋に在住18年になるが、発音は東京方言と違いがあっても、アクセントは東京アクセントと全く同じであり、違和感がな